

学生支援サミット 2022 実施報告書

三重大学 学生総合支援機構
学生活動センター

目次

1. はじめに … p.2

2. 学生支援サミット 2022 概要 … p.3

- 趣旨
- 目的
- 当日の内容
- 主催
- 日時
- 開催場所
- 参加者
- 当日のスケジュール

3. 当日の参加状況 … p.5

- 学生・教職員の参加状況
- 当日の各ブース構成

4. 当日の流れ … p.6

- 進行スライド
- 各センターの紹介資料

5. 各ブースの活動報告 … p.12

- 各ブースの発表内容

6. 資料 … p.16

- 学生支援サミット 2022 ポスター
- 三重大学ホームページ トピックス掲載記事

1. はじめに

三重大学では、「学生支援サミット」と名付けたイベントを毎年開催しています。これは、今後の三重大学の学生支援のあり方に関するビジョンを、学生・教員・職員がともに描き、共有し、それに基づいて三重大学の今後の学生支援のあり方を検討する目的で、平成24年度より始まりました。毎回、テーマを設定し、参加者はグループに分かれて意見を出し合い、それを全員で共有します。

本年度の「学生支援サミット 2022」は、テーマを「学生・教職員が共に創る“学生支援”先進大学～コロナに負けない！三重大学を目指して～」に設定し、ウィズコロナ時代を生き抜く“学生支援”先進大学としての三重大学の形ついて考える機会として、本サミットを開催しました。今回は、学生総合支援機構を構成する各センターが担う領域を参考にし、(1) 修学・学生生活支援、(2) キャリア支援、(3) 課外活動支援、(4) ころやからだの相談支援・ピアサポートの4つの領域を設定し、学生支援の各領域に求められる今後の在り方について、学生と教職員が協働してディスカッションを行い、アイデアの発表を行いました。本報告書は、この活動と成果をまとめたものです。

サミットにおいて提言された意見やアイデアを多くの方に知っていただき、学生生活環境の充実をはじめ、三重大学の発展の寄与につながる資料としてご覧いただけることを心よりお願い申し上げます。

また最後となりますが、学生支援サミットの企画・運営に関わりご協力を頂いた皆さま、当日参加し貴重なアイデアを出して頂いた学生・教職員の皆さまに厚くお礼申し上げます。

学生総合支援機構
学生活動センター

2. 学生支援サミット 2022 概要

○ 趣旨

年に一度、三重大大学の学生・教員・職員がともに大学をより良いものとして行くために協働して議論を行う機会として開催している。本年度は、テーマを「学生・教職員が共に創る“学生支援”先進大学～コロナに負けない！三重大大学を目指して～」に設定し、ウィズコロナ時代を生き抜く“学生支援”先進大学としての三重大大学の形について考える機会として、サミットを開催した。

○ 目的

- ① コロナ禍での経験を踏まえた学生支援とは何か、対面での大学生活と継続する感染対策にいかに対応するか等について、学生と教職員が主体的に検討する機会とする。
- ② 三重大大学での学習や生活、大学運営がより生き生きとした望ましいものにできるよう、全国的にも先駆的な「学生支援方針」を掲げる三重大大学の支援実態の理解と今後の発展を目指して、学生と教職員が協働する意識を育む。

○ 当日の内容

まずは導入として、これまでの三重大大学における学生支援に係る動向、各センター（領域）からの活動紹介や後の活動での討論希望の内容に関する説明、その後の流れ等について説明を行った。その後、(1) 修学・学生生活支援（担当：修学支援センター）、(2) キャリア支援（担当：キャリアセンター）、(3) 課外活動支援（担当：学生活動センター）、(4) ころやからだの相談支援・ピアサポート（担当：学生相談センター、障害学生支援センター）の4つの領域ごとのブースに分かれ、各センターが提示した討論希望点等に関するディスカッションを学生と教職員で行った。ディスカッションの中で出た意見やアイデア、今後の活動に向けての展望等はブースごとにパワーポイントやワード等の資料にまとめ、その資料を用いた各ブースからの報告を行い、フロア全体での共有を行った。

○ 主催

三重大大学 学生総合支援機構・学生活動センター

○ 日時

令和4年9月26日（月）13:00～16:00

○ 開催場所

三重大大学講堂 小ホール

○ 参加者

学生については、各学部への参加依頼等を通して募集した結果、合計 45 名の参加エントリーがあった。教職員については、学生総合支援機構や学務部等の関係教職員、合計 20 名が参加した。

○ 当日のスケジュール

13:00～13:10 (10分)	【開会の挨拶】 三重大学学長 伊藤正明
13:10～13:40 (30分)	【導入】 <ul style="list-style-type: none">・学生支援サミットの概要や活動内容の説明 (担当：風間)・各センターからの活動紹介や後の活動での討論希望点の説明 (担当：各センター)
13:40～13:45 (5分)	移動・準備時間
13:50～15:15 (85分)	【各ブースでの活動内容】 <ul style="list-style-type: none">・各領域担当のセンターによる支援体制やこれまでの活動に関する追加情報の提示・事前アンケートにて参加学生から募った質問や要望についての質疑応答・各センターが事前に用意した討論希望点、または直前の質疑応答で挙げた討論テーマに関するディスカッション・全体報告に向けた内容のまとめ
15:15～15:50 (35分)	【活動報告と全体での質疑応答】 <ul style="list-style-type: none">・各ブースでの活動報告・全体での質疑応答
15:50～15:55 (5分)	【総括コメント】 教育担当理事・学生総合支援機構長 鶴原清志
15:55～16:00 (5分)	【閉会の挨拶】 学生総合支援機構副機構長 野崎哲哉

3. 当日の参加状況

○ 学生・教職員の参加状況

学生支援サミット当日の参加者数は、学生 45 名、教職員 20 名の合計 65 名であった。参加学生の所属学部の内訳は、人文学部・人文社会科学研究科 8 名、教育学部 8 名、医学部 11 名、工学部・工学研究科 10 名、生物資源学部・生物資源学研究科 8 名であった。

○ 当日の各ブース構成

当日の各ブースの校正は以下の通りである。なお、参加学生には、事前にブースの割当て希望についてのアンケートを実施し、希望に基づいて割当てを行った。

ブース①

【修学・学生生活支援】(担当：修学支援センター)

…学生 11 名、教職員 3 名

ブース②

【キャリア支援】(担当：キャリアセンター)

…学生 11 名、教職員 6 名

ブース③

【課外活動支援】(担当：学生活動センター)

…学生 11 名、教職員 4 名

ブース④

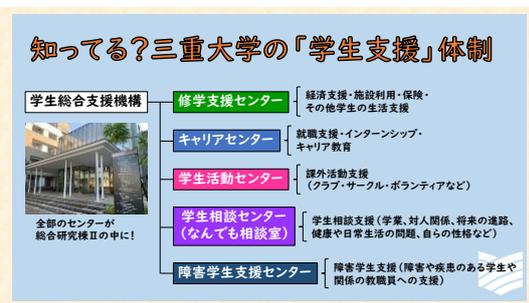
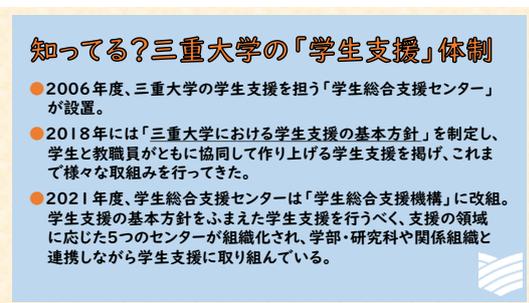
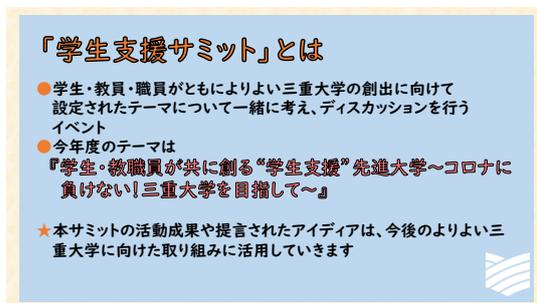
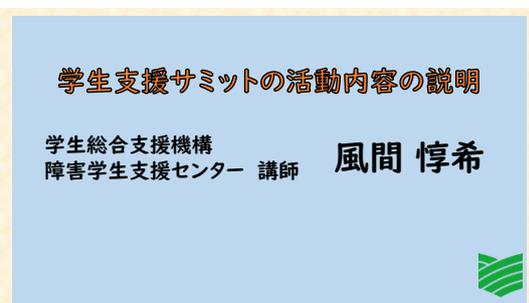
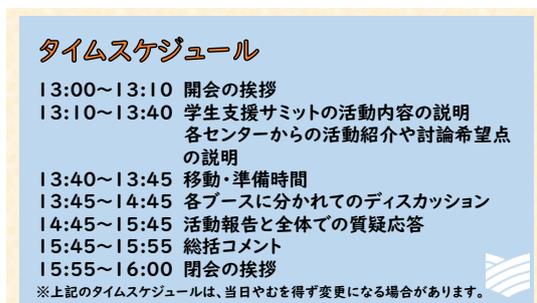
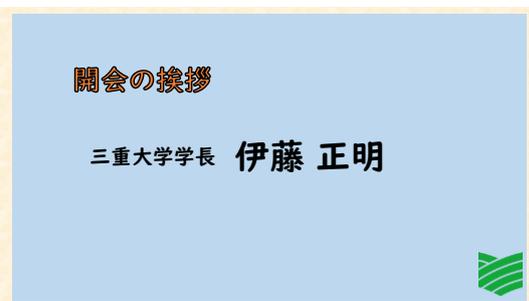
【こころやからだの相談支援】(担当：学生相談センター・障害学生支援センター)

…学生 12 名、教職員 3 名

4. 当日の流れ

○ 進行スライド

当日は以下のスライドの通りに進行を行った。



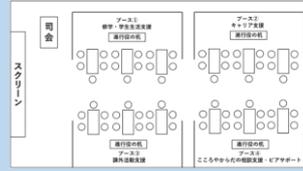
今回の学生支援サミットの活動内容

- 2020年からの新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、大学も大きな影響を受けてきた。
例：通学制限や社会的距離の確保、対面の機会の減少、経済的困窮、こころやかならだの問題
- ここで一度、学生のリアルな現状や提案を取り入れながら、学生と教職員が一緒になって、ウィズコロナ時代を生き抜く“学生支援”先進大学としての三重大学の形を考えてみてはどうか。
- そこで本サミットでは、学生支援の各領域(今回は4つ)に求められる今後のあり方について、学生と教職員が協働して考える機会とします。

8

今回の学生支援サミットの活動内容

- 4つのブースに分かれて、各領域の学生支援のあり方について、学生と教職員で話し合ってもらいます。



9

今回の学生支援サミットの活動内容

- 【各ブースでの活動】(13:45~14:35の60分)
- 各領域担当のセンターによる支援体制やこれまでの活動に関する追加情報の説明と質疑応答
 - 各センターが事前に用意した討論希望点、または直前の質疑応答で挙げた討論テーマに関するディスカッション
 - 全体報告に向けた内容のまとめ
- ※Moodleコースに報告資料のフォーマットを掲載済み
- 【活動報告と全体での質疑応答】(14:35~15:45の60分)
- 各ブースでの活動報告(5~10分×4ブース)
 - 教職員と学生が協力して報告してもらってOK
 - 全体でのディスカッション

10

各センターの活動紹介

- 【ブース①担当】1. 修学支援センター
【ブース②担当】2. キャリアセンター
【ブース③担当】3. 学生活動センター
【ブース④担当】4. 学生相談センター
5. 障害学生支援センター

11

各ブースに分かれて の活動時間

13:50~15:15 (85分)

12

各ブースからの活動報告と 全体でのディスカッション

15:15~15:50 (35分)

13

総括コメント

三重大学教育担当理事
学生総合支援機構 機構長 鶴原 清志

14

閉会の挨拶

人文学部 教授
学生総合支援機構 副機構長 野崎 哲哉

15

多くの方にご参加いただき、
誠にありがとうございました。

- 各ブースで作成していただいた活動報告資料は、Moodleコースの「活動報告資料の提出用フォーラム」にブースが分かる形でご提出ください。
- Moodleコースの最後に掲載されている「意見・コメント投稿フォーム(終了後)」に、本サミットへのご意見や感想をお寄せください。



16

○各センターの紹介資料

【修学支援センター】

修学支援センターの取組

修学支援センターでは、「入学科及び授業料の減免」や「各種奨学金」、「学生寮」などの方法により、**経済的理由によって修学に困難がある学生への支援**を実施しています。

◆入学科及び授業料の減免制度

国の方針に基づき実施している制度であり、家計基準(住民税非課税～年収約380万円)に基づき、入学科及び授業料を減免する制度です。

◆各種奨学金等

日本学生支援機構奨学金(給付型、第一種(無利子)、第二種奨学金(有利子))や、地方自治体、民間財団の奨学金、大学独自の奨学金(全学に係るもの)があります。



(コロナ禍での大学独自の取組)
 ・臨時給付型奨学金制度(10万円給付) *2020年度
 ・「食」に対する支援(1万円分の食券配布) *2021年度

◆学生寮

市場価格よりも安く住居を提供することにより、学生の負担を軽減する経済支援として、男子寮(寮費16,000円)、女子寮(寮費15,000円)、国際女子寮(寮費10,000円)の轉換、管理をしています。

・「学生寮」

年度	男子寮	女子寮	国際女子寮
2020年度	85(109)	58(60)	55(75)
2021年度	84(109)	55(60)	51(75)

※年度当初の数値を計上。
①は定員

◆三重大学におけるコロナ関係支援制度利用状況

- ・「臨時給付型奨学金制度(10万円給付)」 **410名(6%)** *2020年度 大学独自制度
- ・「学びの継続のための学生支援緊急給付金(10万円給付)」 **871名(12%)** *2020年度 国の制度
- ・「「食」に対する支援事業(1万円食券配布)」 **494名(7%)** *2021年度 大学独自制度
- ・「学生等の学びを継続するための緊急給付金(10万円給付)」 **993名(14%)** *2021年度 国の制度



制度を重複して利用している学生がありますが、何らかの経済支援制度を利用している三重大学生は、全体の3割弱います。

今回の議論の進め方



- ・今後実施すべき(して欲しい)大学独自の取組について、学生の支援ニーズから、本学における過去の事例や他大学の事例を参考に、一緒に考えましょう！
- ・制度利用者の学生さんについては、現状の経済支援制度の手続き等に関しても、率直なご意見をください。

◆具体的な内容

現在、経済支援制度を利用していない方も大歓迎です！

<支援ニーズを考える>

①学生が、**大学生活で目標にしていること、大学生活に求めること**ってなんだろう？

②**あったら嬉しい支援**って、なんだろう？

<制度の企画をしてみる>

具体的に「あったらいいな」の制度企画書を作ろう！

上記について、個人ワークと全体ワークを交互に実施して、議論を深める予定です。

修学支援の必要性

◆全国的な状況

・経済的に勉強を続けることが難しいと感じている学生は、**10人に1人**

- ・「家庭からの給付なし」又は「家庭からの給付のみでは修学に不自由」、「家庭からの給付のみでは、修学継続困難」と答えた国立大学学生は、**約3割**

◆三重大学における制度利用状況

※日本学生支援機構「令和元年度奨学金事業に関する実態調査」より

・「日本学生支援機構奨学金」

	給付型奨学金	第一種奨学金(無利子)	第二種奨学金(有利子)
2020年度	475名(7%)	1,072名(15%)	667名(9%)
2021年度	533名(8%)	1,005名(14%)	657名(9%)

※①は奨学生数に対する割合

・「入学科・授業料減免制度」

種別	年度	全学免除	2/3免除	半額免除	1/3免除
入学科	2020年度	51	25	33	21
	2021年度	55	27	34	21
授業料	2020年度	533(8%)	61(1%)	160(2%)	27(0.4%)
	2021年度	489(7%)	92(1%)	112(2%)	50(0.7%)

※授業料については、後期の利用数値を計上
※①は奨学生数に対する割合

他大学の経済支援制度例(独自制度)

◆学生食堂での「100円朝食フェア」

健康管理や遅刻防止、生活習慣を整える効果もあるとのこと、慶応大学、立命館大学、神戸大学、同志社大学等、全国で同様の制度を実施している。



◆英語学習奨励支援奨学金

経済支援を必要とする学生を対象とし、英語能力試験に係る受験に必要な経費を支給する制度で、金沢大学での実践例がある。

◆モバイル通信環境改善給付金

経済的な事由により自宅にネットワーク環境を構築することが困難な学生を対象に一部補助する制度で、山梨大学での実践例がある。

◆寄宿料免除

経済的理由により寄宿料の納付が困難な学生にたいして免除する制度で、富山大学での実践例がある。

【キャリアセンター】

(紹介動画)



(討論希望点のスライド)

今回のテーマ

後輩に届けたい就活サポートについて
～あったらよかったこんなこと～

今まで就活を進めてきて、あるいはこれから就活を進めるにあたって、皆さんはどんなサポートやガイダンス、イベントがあったら良かったと思いますか？
今後実施していくべきサポートについて一緒に考えましょう！

【学生活動センター】

学生活動センターの概要と課題について

川中 晋晴 (かわなか ひろはる)
学生活動センター・センター長
工学研究科・電気電子工学専攻

学生活動センターの業務と主な取り組み (一覧)

- ・ クラブ・サークルなどをはじめとする課外活動全般の支援
- ・ 大学祭等や学生支援サミット等、学内の学生イベントへの対応
- ・ 学生のピアサポート活動等の支援
- ・ 交通問題・飲酒問題等への対応 (自転車登録制実施, マナー違反に対する指導・啓発活動)
- ・ 学生のボランティア活動への対応
- ・ そのほか課外活動等における学生の指導

学生活動センターの主な取り組み (その1)

- ① 課外活動全般の支援
 - ・ クラブ・サークル連絡会 (原則月1回) の開催
 - ・ 課外活動団体への支援・備品購入助成, 課外活動施設の修理・計画
 - ・ リーダー研修会開催 (2月に実施)
- ② 学内の学生イベントへの対応
 - ・ 新歓オリエンテーションの支援
 - ・ 学生支援サミットの開催
 - ・ 大学祭
 - ・ アカデミックフェア

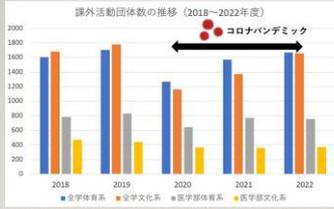
3

学生活動センターの主な取り組み (その2)

- ③ 学生のピアサポート活動等の支援
 - ・ ピアサポーター学生委員会
 - ・ ACS (障害学生支援) 学生委員会
 - ・ 大学祭実行委員会
- ④ 交通問題・飲酒問題への対応
 - ・ 交通安全指導 (街頭での交通マナー啓発活動)
 - ・ 苦情への対応
 - ・ マナー違反 (ヤガイドライン違反) を行った学生や課外活動団体への対応

4

参考データ



- ・コロナ禍を期に減少
 - ・全学系団体については2021年以降は回復傾向
 - ・医学部体育系については2021年度にはコロナ禍前まで回復
 - ・医学部文化系については2020年で緩やかに減少し横ばい状態
- コロナ禍を期に課外活動のあり方も大きく変化しつつある

未来の課外活動について考えてみるいい機会
～W/ コロナ社会における課外活動のために～

学生活動センターとしてみなさんに議論してもらいたいこと
キーワードは「持続可能な課外活動」
(最終案はディスカッションのときに決めたいと思います)

例：課外活動と(地域)社会との連携
地域共創を目指した課外活動のあり方について
コロナ禍における課外活動の問題点と今後

【学生相談センター(なんでも相談室)】

学生支援サミット2022
学生相談センターの
現状と課題

学生相談センターの
業務①

「学生なんでも相談室」の運営

- ・修学、進路、日常生活、対人関係の問題など、文字通り「どんなことでも」相談に乗っています。
- ・心理カウンセラーもあり、「こころの問題」的なお話も大丈夫です。
- ・直接対話による相談のほか、電話・メール・オンラインでの相談も行っています。
- ・年間延べ1000件以上の相談に対応しています。

開室日時： 平日(月～金) 10時～17時
場所： 総合研究棟Ⅱ 1階

連携・協働による学生支援の展開

- ・全学員会等での相談室の稼働状況や課題の報告、共有。
- ・来談学生へのより良い対応のため、各部署教職員との協議。
- ・各部署での学生対応に関する講演。



学生相談センターの
業務②

学生相談センターの
業務③

「ピアサポーター学生委員会」の支援

- ピアサポーター学生委員会の主な活動内容
- ・新入生を対象とした「春のなんでも相談」活動
 - ・秋の履修相談会
 - ・さまざまな「繋がりづくり」を意識したイベントの開催
 - ・動画等による学生支援コンテンツの制作
 - ・他大学ピアサポーター団体との交流
- など。

学生支援の
3階層モデル

学生・教員・職員からなる大学の全構成員がそれぞれの役割・立場でより良い学生支援を目指して協働するモデル！



考えてみたい
テーマ①

学生相談センターからの問題提起
「不登校」について考えてみよう！

「大学生の不登校？」

- ・小堀 (1996) の調査
男性1.6% 女性0.58% 計0.9%が該当
回収率から推定される実際の割合
1.2～2.0%。
- ・鈴木 (2014) の調査
「不登校の学生の対応経験がある」教員は、
全体の82%。
- ・鈴木 (2019) の調査
過去に相談室利用歴のあった休退学学生
のうち、49.3%は初回時に既に「不登校」。

「現状は？」

- ・担当教員による本人への連絡
→ 保護者への連絡
- ・相談室にてカウンセラーと相談
→ 本人が自主的に来談
→ 教員から紹介
→ 保護者から紹介
- ・共通教育の必修授業
(スタゼミ/教ゼミ)でのフォロー。

「考えてみよう！」

- ・そもそも「不登校の学生」は支援すべき対象なのか？
- ・誰による、誰に向けた、どんな支援を加えることが「効果的」だろうか？

それで「人知れず」零れ落ちている学生の方が多いと思われる...

考えてみたい
テーマ②

ピアサポーターからの問題提起
「ピアサポ」に何してもらいたいですか？

「ピアサポ？」

- 「同じ学生だからこそできる学生支援」について、日々検討し、実践しています。
- 活動指針(ピアサポーター宣言)
『私たちは、競争と同じ目標に立ち、三重大学生が三重大学のサポーターである風土をつくりたい。そして、人と人との関わり、人と環境との関わりを通じて、つながりをより強固にします。』

「現状は？」

- ・色んな“支援”企画を検討し、twitterやインスタなどを通じてその都度、広報していますが...

「考えてみよう！」

- ・「学生による学生支援」団体にどんな活動を期待しますか？

もっと認知度を上げたいかな？

三重大学のニーズにマッチしているのかな？

- ・どんな活動だったら、一緒に「やってみたい」「参加したい」と思いますか？

【障害学生支援センター】



『障害学生支援センター』って？

- 何らかの障害や疾患等を理由とした修学上・大学生活上の悩みごとや困りごとが起きた時に相談できる場所です。
- 学生さん本人からの相談だけでなく、学部・研究科の先生や職員さん、保護者、その他障害に関するいろんな相談に対応します。
- 大学のキャンパス内は、障害や疾患のある学生さんにとってのバリアでいっぱい！その環境を教職員と連携しながら変更・調整（コーディネート）していくのが仕事です。



高等教育機関における障害学生の在籍状況



★在籍する学生の数は年々増加傾向にある
⇒これからどんどん大事な役割を担っていくのが障害学生支援！

日本学生支援機構 『障害のある学生の修学支援に関する実態調査』(平成18年度～令和3年度)

2

『障害学生支援センター』ってこんなところ

総合研究棟II 3階(保健管理センターの上)



ご相談・お問い合わせはこちら
TEL:059-231-9903
MAIL:2525shien@ab.mie-u.ac.jp



ATライブラリー (支援機器の体験・貸出)

↑相談スペース
ATライブラリーの支援機器一覧は障害学生支援センターHPにて掲載

3

せっかくなので知ってほしい！ 『不当な差別的取り扱い』と『合理的配慮』

『不当な差別的取り扱い』

正当な理由なく、障害を理由として各種機会の提供を拒否する又は提供に当たって場所・時間帯を制限するなど、障害のない学生に対しては付かない条件を付すこと。

差別的取り扱い	合理的配慮
<ul style="list-style-type: none"> ● 正当な理由なく、障害を理由として各種機会の提供を拒否する又は提供に当たって場所・時間帯を制限するなど、障害のない学生に対しては付かない条件を付すこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 正当な理由なく、障害を理由として各種機会の提供を拒否する又は提供に当たって場所・時間帯を制限するなど、障害のない学生に対しては付かない条件を付すこと。



「障害者差別解消法」で、障害等を理由とした不当な差別的取り扱いの禁止が法的義務になっています！

4

せっかくなので知ってほしい！ 『不当な差別的取り扱い』と『合理的配慮』

『合理的配慮』

心身の機能制限や障害等があることによって、他の学生と同じように教育や大学生活を送ることが困難になっている場合、本人のニーズに応じて、環境や設定を変更・調整すること。ただし、大学の財政面や体制面で過度な負担にならないように、本人と大学による当事者間の建設的な対話を通じて検討、実施されるもの

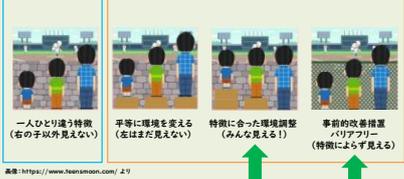
- 【視覚障害】
教科書や配布資料、板書の文字が見えない・見づらい
→ 点字の付いた教科書や拡大印刷した資料を配付する
→ 見やすいように教室前方の座席を確保する
- 【聴覚障害】
教員や学生の話し内容が聞えない・聞き取りにくい
→ 情報保障支援(例:手話通訳、パソコン・ノートブック)
→ 授業資料を事前に配付する
→ 騒音しやい環境作り
→ (例:大きな声でゆっくりはったりと話す、静かな環境作り)

「障害者差別解消法」では、国や地方公共団体、独立行政法人等での合理的配慮の不提供の禁止は法的義務になっています！
★2021年5月に改正され、すべての事業者で合理的配慮の提供が法的義務になりました！

5

環境を変更・調整する合理的配慮のイメージ

配慮なし 合理的配慮・事前的改善措置(バリアフリー化)の例



障害学生支援センターが関わる部分！

6

相談以外にもいろいろやっています！

「三重大学障害学生支援ハンドブック」の作成

障害学生支援に関する学内セミナーの開催

バリアフリーマップ作り(現在進行中...)

7

ACS学生委員会(障害に関する学生委員会)

障害支援の活動を基点に、広く「てこぼちみちでも並んで歩こう」を合言葉に活動する団体

今までの活動内容

- 筆談カフェ
- 新聞「ACSのねえ知ってる？」発行
- 誰でも書き込みOK「お便りノート」
- 障害支援関連の学外イベントへの参加
- パーカー・支援ツール etc. グッズ作成

←twitter:@Miedai_ACS

8

障害学生支援センターからのトークテーマ

- 今年度から、三重大学は「障がい」→「障害」に表記を変更しました(社会の側が障害になっていることを強調するため)。「障害」「障がい」「障碍」「しょうがい」etc... 様々な表記があるけど、なにが一番いいだろうか。
- 「学生なんでも相談室」「障害学生支援センター」「保健管理センター」など、ところやからだのこことについて相談できる場所があります。正直、学生の皆さんは知っていますか？また、相談のハードルって高いですか？もし、認知度が低い場合や相談のハードルが高い場合、どうしたら改善すると思いますか？ お知恵をお貸しください！

9

ACS学生委員会からのトークテーマ

- ACS学生委員会が行う活動も、ピアサポートの一つ。現状: 障害支援に関する活動をベースに、ひろく障害支援に限らない活動中。twitterなどを通じて色々発信しているけど...
- 今後、ACS学生委員会の活動をもっと三重大学で盛り上げていくために...
・「こんな活動、ニーズありそうだよ!」
・「こういう活動があれば、一緒にやってみたいなあ」などなど、皆さんの意見をきいてみたいです!

10

5. 各ブースの活動報告

○ 各ブースの発表内容

【ブース① 修学・学生生活支援】

学生支援サミット2022
2022.9.26 (月) 13:00~16:00

ブース① 「修学・学生生活支援」 活動報告資料

メンバー：太田芽生（人文学部3年）、堀川紗希（人文学部3年）、
平井智子（人文社会学研究科M2）、浅井敬介（教育学部4年）、
島田直徳（医学部看護学科2年）、村上隼人（医学部看護学科2年）、
中北 彩（医学部看護学科4年）、
黒木玲花（工学部4年）、阪口大河（工学研究科M1）
加藤沙耶香（生物資源学部4年）、吉川優裕（生物資源学研究科M2）
大島啓子、佐野智之、杉谷涼子（学生支援チーム職員）

支援ニーズについて①

「大学生活でみんなが目標にしていること、大学生活に求めること」をそれぞれ考えて発表し、それらをグルーピングして傾向を考えました。出て来た主な意見は、以下のとおりです。

- 国家試験、公務員試験などの勉強をしたい
- 語学の勉強をしたい
- 研究や実習に集中したい
- 友達・人脈づくりをしたい



支援ニーズについて②

みんなの意見を踏まえ、「あったら嬉しい支援」を他大学の例も参考にして、それぞれ考えて発表し、議論しました。主にあった意見は、以下のとおりです。

- 交流の場が欲しい
学部内の縦の交流、他学部との交流、OB・OGとの交流
- 食の支援
百円食堂（研究等に集中しようと思った時に食の支援はありがたい）
- ICT支援
印刷費上限の撤廃、印刷できる場所を増やして欲しい、PDF編集ソフト導入費用補助
- 資格試験の受験費用や教材費用の支援
合格したらとか条件付きで補助（モチベーションアップにもなる。）
- 多様な背景の学生のための奨学金（制度の対象外になってしまうが困っている学生もいる。）

「あったらいいな」の制度企画書

「優先度」、「公平性」、「実現可能性」の観点で1つ選び、どんな制度があると良いかをみんなで話し合い、制度企画書を作成してみました。

◇制度名：TOEIC 600OVER

◇概要：TOEICの試験費用補助
600点以上を取得した学生に対し、**受験費用と教材費として1万円を支給する（一人一回限り）**
※他の試験や言語など、対象については検討が必要かもしれない。

◇対象者：学部3年生以上のTOEIC受験生



「あったらいいな」の制度企画書

「優先度」、「公平性」、「実現可能性」の観点で1つ選び、どんな制度があると良いかをみんなで話し合い、制度企画書を作成してみました。

◇制度名：朝カツ！！

◇概要：1コマ前の時間に**食堂で勉強会を実施し、朝食代を大学から支援する**。
※経済支援でもあり、交流の場の提供でもあり、モチベーションアップにもつながる効果が期待できる！寝坊しないし、頭がすっきりした時に勉強も捗るはず。

◇実施時期・期間：
4月と8月のテスト前
10月と2月のテスト前

◇対象者：希望者全員



「あったらいいな」の制度企画書

「優先度」、「公平性」、「実現可能性」の観点で1つ選び、どんな制度があると良いかをみんなで話し合い、制度企画書を作成してみました。

◇制度名：縦コン！！

◇概要：**OB・OGを含む学部としての情報交流会を企画し、食事代を支援する**。
※経済支援でもあり、交流の場の提供でもある。「情報」を得る場でもあり、「朝カツ！！」とは異なる効果が期待される。

◇実施時期・期間：9月連休に各学部で実施

◇対象者：希望者全員



感想

➢ 学生から
金銭的支援については全学生に共通する興味・関心だと思った。今日話した支援が実現されるといいなと思った。

➢ 職員から
学生さんの支援ニーズやリアルなご意見を聞くことが出来て、とても参考になった。特に資格試験支援に関するご意見については、多くの要望があり、なるほどなと思った。時間の関係で発表資料にまとめきれなかったが、貴重で参考になるご意見が沢山あった。予備には限りがあるが、少しでも学生のニーズに応えられるように、今回の意見を参考に検討していきたい。

【ブース② キャリア支援】

<p style="text-align: right;">学生支援サミット2022 2022.9.26 (月) 13:00~16:00</p> <p style="text-align: center;">学生支援サミット2022 「キャリアセンターブース」 活動報告資料</p> <p>メンバー:</p> <p>人文学部 文化学科 4年 坂口 彩花 ① 医学部・医学科 3年 眞鍋 君唯 ① 工学部 建築学 4年 三浦 友斗 ① 工学部 電気電子 M1年 魚見 昌平 ① 生物資源学部 森林資源 4年 大塚 理希子 ① 人文学部 文化学科 3年 伊藤 光希 ② 教育学部 英語教育 4年 別所 雅世 ② 医学部・看護学科 4年 土本 奈実 ② 工学部 情報工学 4年 河井 亮典 ② 工学部 応用化学 4年 道田 琴子 ② 生物資源学部 森林資源 4年 服部 基太 ② 長岡、勝崎 (キャリアセンター教員) 南川、白木、谷奥 (キャリア支援チーム職員)</p> <p style="text-align: left;">MIE UNIVERSITY</p>	<h3 style="text-align: center;">キャリアセンターブースでの議論</h3> <p>キャリアセンターブースでは、これまでのキャリアセンターの利用の中で、利用して良かったイベントやサポートについての意見を交換し、</p> <p style="text-align: center;">「後輩に届けたい就活サポート」</p> <p>をテーマに、今後キャリアセンターに期待するサポートや、キャリアセンターに求めるものは何か、を議論しました！</p>
<h3>○グループ①「後輩に届けたい就活サポート」</h3> <p>まずは、これまでのキャリアセンターの利用の中で、良かったイベントや、便利だったサポート、これまでのキャリアセンターとのかかわり方をそれぞれ発表しました。参加者からは、以下のような意見がありました。</p> <p>【意見出し「これまでのキャリアセンターとのかかわり」】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学に入って、やりたい事を見失っている。就活ガイダンスは受け身、民間企業が主催しているイメージがある。学生と企業を繋げる方に力点が行っているように感じる。学生そのものがキャリアを含めてどうしていきたいかを見つめる機会があればいい、それをサポートするような大学の取組みがあればよい。 キャリア教育関連授業は受けていないが、受けた方がいいと感じている。 もっと早くキャリア教育について知っておけばよかった。 インターンシップが卒業要件になったことについて、義務化しないと行かないということもあるが、もう少し主体的に行ける仕組みがあれば学びにつながると思う。 いざ就活となった場合、自分自身で自分の事をわかっていないことも多く、1・2年生からでも自分の事を考え直す機会があればよい。 低学年向けの企画をキャリアセンターでも考えている。 先生から教えてもらうというスタイルもよいが、学生主体の委員会等があればいい。→CPS学生委員会等 	<h3>○グループ①「後輩に届けたい就活サポート」</h3> <p>【意見出し「これまでのキャリアセンターの利用でよかったこと」】</p> <ul style="list-style-type: none"> 公務員を目指してしたが、公務員講座に入っていない公務員志望の学生向けのサポートを、キャリアセンターが行っている事を知らなかった。詳しい実態(どんな相談内容があるのか等)を知れたら、第一歩を踏み出しやすと感じた。 あまりキャリアセンターを利用せず、どんなサービスを提供しているかを知らなかった。企業の探し方、業界研究が不足していると感じるので、どのようにすればよいのか、を知ることが出来ればよいと感じた。現状は、研究室の先輩等や、家族に話を聞いたりしているが、わからないこともある。 夏のインターンは複数行ったが、インターンシップも個別の専門分野によってやるのが細分化しているため、全体論だけでなく、詳しい内容を事前に知れたかった。 公務員志望であったが、キャリアセンターでの面接練習は何回か利用した。ガイダンスや合同企業説明会は、日程が合わず、あまり参加できなかった。 全学部に通ずるものとして、マナー研修等があればよいと感じた。→IS事前研修会やIS入門等でもあがるが、イベントとして別途あればなおよい。 インターンシップは、キャリアセンター経由だと手続きや書類が少し煩雑なこともあり、自由応募とすることもあった。受けられる恩恵と手間がある。
<h3>○グループ①「後輩に届けたい就活サポート」</h3> <p>また、キャリアセンターの利用の中で、こんなサービスや、取組があればよいのに、という要望を、それぞれ発表しました。</p> <p>【学生や教職員から出た意見・要望・今後に向けたアイデア】</p> <ul style="list-style-type: none"> 低学年向けのガイダンスを実施する(業者を使わずにキャリアセンター主催で) 学生主体ということを中心に、イベントを開催してもらえれば、情報がすんなり受け取りやすいことはある。例として、情報の多さ、偏りはあるが、先輩等から聞いた情報の方が、受け取りやすいということもある。 キャリアセンターと日常からの接点があった方が利用しやすい。キャリアセンターに学生が入れるスペースが欲しい。例えば、テレキューブの前など。そこで、学生による学生に向けたコーチング等もできたらよい。学生だけだとできないこともあるので、うまくセンターを利用しながら共創できればよい。 	<h3>○グループ②「後輩に届けたい就活サポート」</h3> <p>まずは、これまでのキャリアセンターの利用の中で、良かったイベントや、便利だったサポートをそれぞれ発表しました。参加者からは、以下のような意見がありました。</p> <p>【意見出し「これまでのキャリアセンターの利用でよかったこと」】</p> <ul style="list-style-type: none"> テレキューブはとてよかったです。 カウンセラーが2名いるのはとてよかったです。 学内企業研究会については、オンラインは気軽に参加できること、対面は得られる情報が多い事など、それぞれの良さがあるが、良い取り組みであると感じた。
<h3>○グループ②「後輩に届けたい就活サポート」</h3> <p>また、キャリアセンターの利用の中で、こんなサービスや、取組があればよいのに、という要望を、それぞれ発表しました。</p> <p>【学生や教職員から出た意見・要望・今後に向けたアイデア】</p> <ul style="list-style-type: none"> 案内のメール等については、情報伝達の方法を整理してほしい。 コースごとや、直属の先輩がどのような就活をしたかについて知りたい。専門的な分野についての情報が欲しい。分野によっては、学生同士のつながりで得られる情報にも限界がある。 就職だけでなく、起業などキャリアプランとしての選択肢を増やして、視野を広げるようなサポートが欲しい。 様々なイベントなどがあるのはわかるが、どれが大事な情報がわからない。メールなど情報の伝達については、分野等選択制にしてほしい。 ガイダンスや合同企業説明会は、日程が合わず、あまり参加できなかった。 	<h3 style="text-align: center;">最後に (まとめ)</h3> <p>全員で議論を深め、これまでの議論を展望やアイデアの形に落とし込みました。</p> <p>【学生目線に立った「こうすれば三重大学はよくなる！」アイデア】</p> <p style="background-color: #00FF00; padding: 2px;">グループ① 学生と職員の共創による開かれたキャリアセンター</p> <p style="background-color: #00FF00; padding: 2px;">グループ② 「視野を広げる」+「キャリア全体のきめ細やかなサポート」を！</p>

【ブース③ 課外活動】

<p style="text-align: right;">学生支援サミット2022 2022.9.26 (月) 13:00~16:00</p> <p style="text-align: center;">ブース③ 「課外活動支援」 活動報告資料</p>	<p>話し合ったテーマ①「サークル間の情報共有」</p> <p>【学生や教職員から出た意見・要望・今後に向けたアイデア】</p> <ul style="list-style-type: none">・サークル活動の施設の不備報告をする匿名掲示板(学内限定)・学内で活動できる場所・時間の制限(全学・医学)について →ルールをオープンにして掲示する。・moodleやアナログの掲示板使用・連絡会の有効活用 <p>(現状では職員からの報告がメインであるが、学生から事前に問題提起をもらい、それに対する回答をしてほしい。)</p>
<p>話し合ったテーマ①「サークル間の情報共有」</p> <p>【学生や教職員から出た意見・要望・今後に向けたアイデア】</p> <ul style="list-style-type: none">・他の部活団体との連絡方法・学内施設の修理について(予算の関係→優先順位を決める。)・学内施設の利用状況を公表してほしい。(HPに掲載する。)	

【ブース④ こころやからだの相談支援・ピアサポート】

<p style="text-align: right;">学生支援サミット2022 2022.9.26 (月) 13:00~16:00</p> <p style="text-align: center;">ブース④ 「こころやからだの相談支援・ ピアサポート」 活動報告資料</p>	<p>話し合ったテーマ①「障害について」</p> <p>【学生や教職員から出た意見・要望・今後に向けたアイデア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しょうがいの表記:どれか一つにまとめた方がよい。当事者からの漢字への反対の声が大きいなら、ひらがなの方がよいのかもしれない。 ・なぜ「しょうがい」なのか考える機会になる。 ・新しい言葉を作り出してはどうか(カッコいい言葉)。ポジティブな表現がよい。すべき支援を見極める。
<p>話し合ったテーマ②「相談窓口について」</p> <p>【学生や教職員から出た意見・要望・今後に向けたアイデア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究室にポスターで周知する。 ・相談窓口では匿名の相談がよい。ハードルが下がる。 ・グレーゾーンの学生に分かりやすい周知をする。アプリでおおよその相談内容を振り分けるとよい。 ・三重大版マップを作り、分かりやすい場所の周知をするとよい。 ・いろいろな情報をひとつにまとめたアプリがあるとよい。 	<p>話し合ったテーマ③「不登校について」</p> <p>【学生や教職員から出た意見・要望・今後に向けたアイデア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各授業3回無断欠席をしたら、担当部署へ連絡する。
<p>話し合ったテーマ④「ピアサポ・ACSについて」</p> <p>【学生や教職員から出た意見・要望・今後に向けたアイデア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生から入りやすいコミュニティがあればよい。 ・ピアサポの定義をわかりやすくしてほしい。 ・どんな人が活動しているか情報がほしい。 ・相談に行ったら部活の勧誘をされた。やめてほしい。 ・何をしているところか、場所もわからない。学食で広報するとよい。先生を招聘し膝をつき合わせたゆるい授業をしてほしい。 ・OB・OGの繋がり(就職のコンテンツ)を作してほしい。 	<p>最後に・・・</p> <p>【学生目線に立った「こうすれば三重大はよくなる!」アイデア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■「『しょうがい』の表記」 どれか一つにまとめた方がよい。当事者からの漢字への反対の声が大きいなら、ひらがなの方がよいのかもしれない。なぜ「しょうがい」なのか考える機会になる。 ■「相談窓口」 いろいろな情報をひとつにまとめたアプリがあるとよい。 ■「ピアサポ・ACS」 先生を招聘し膝をつき合わせたゆるい授業(座談会のような)をしてほしい。 ・OB・OGの繋がり(就職のコンテンツ)を作してほしい。

6. 資料

- 学生支援サミット 2022 ポスター
- 三重大学ホームページ トピックス掲載記事



学生支援サミット2022

学生・教職員が共に創る“学生支援”先進大学
～コロナに負けない！三重大学を目指して～

日時

2021年9月26日(月) 13:00～16:00

開催場所

三重大学講堂 小ホール【対面開催】

三重大学では2018年に「三重大学における学生支援の基本方針」を制定し、学生支援に力を入れてきました。一方、COVID-19の拡大から3年が経過した今、新しい時代に適した大学のあり方が問われています。ウィズコロナ時代を生き抜く“学生支援”先進大学としての三重大学とは、どのような形だろうか。学生目線のリアルな現状や提案を取り入れながら、学生と教職員が一緒になって検討することで、その輪郭が描けるかもしれません。

本サミットでは、①修学・学生生活支援、②キャリア支援、③課外活動支援、④こころやからだの相談支援・ピアサポート、という学生支援の4つの領域を設定し、三重大学を“学生支援”先進大学にすべく、各領域に求められる今後のあり方について、学生と教職員が一緒になって考える機会にします。

参加者
募集

参加をご希望される場合は、
右記のQRコード先の参加申込フォームからお申込みください。
※教員から参加依頼を受けた方は、
こちらでお申しいただく必要はございません。



お問い合わせ・お申込み

三重大学 学生総合支援機構(担当:風間)

TEL 059-231-6262

MAIL Junki.kazama@mie-u.ac.jp

主催: 三重大学 学生総合支援機構・学生活動センター

学生支援サミット2022 学生・教職員が共に創る"学生支援"先進大学 ～コロナに負けない！三重大学を目指して～

2022年09月30日

9月26日(月)、「学生支援サミット2022 ～学生・教職員が共に創る"学生支援"先進大学～コロナに負けない！三重大学を目指して～」を開催しました。

本サミットでは、学生・教職員が協働しながらディスカッションを行い、より良い三重大学となるよう考えていく貴重な機会として、学生総合支援機構主催で毎年開催されているイベントです。本年度は3年ぶりに対面形式により学生・教職員合わせて65名が参加しました。①修学・学生生活支援②キャリア支援③課外活動支援④こころやからだの相談支援・ピアサポート、の4つの学生支援の領域を設定し、学生総合支援機構障害学生支援センターの風間惇希講師の進行のもとサミットが行われました。



冒頭、伊藤正明学長から「学生と教職員の皆さんが、三重大学を"学生支援"先進大学にするために今後のあり方を一緒に検討することは非常に重要。しっかり議論をしていただき、皆さんの意見を三重大学の教育、学生支援の方針に生かしていきたい。」と開会の挨拶がありました。

各ブースの担当教職員から活動内容の紹介、また風間惇希講師から進行等について説明があり、学生は教職員を含めた4つのブースに分かれ、ディスカッションを行いました。その後、各ブースの活動報告が行われ、各領域における現状から学生目線による新たな提案が多数発表されました。



発表後、鶴原清志教育担当理事から「本日出された意見から、可能なものは最大限支援をしていきたいが、ただ要望するだけではなく、学生皆さん自身の活動・協力により実現に結び付けるといった視点を持って提案してほしい。今回の交流で終わるのではなくこの仲間を大事にして、三重大大学の発展のために継続して取り組んでほしい。」と総括がありました。

最後に、学生総合支援機構副機構長の野崎哲哉教育（学生総合支援）担当副学長から「学生支援は皆で創るものという気持ちを共有して一緒に活動してほしい。また、大学の諸課題に対する優先順位を決めるため、学生の意見を聴き、ディスカッションする場を年4回設けることを計画している。今回のサミットをスタートとして、本日参加の皆さんを始め多くの学生に呼びかけるので、是非参加して主体性・創造性の中で有意義な学生生活を送ってほしい。」と閉会の挨拶がありました。

学生・教職員の対面による積極的なディスカッションが行われ、大変有意義なサミットとなりました。

編集：三重大学 学生総合支援機構・学生活動センター

